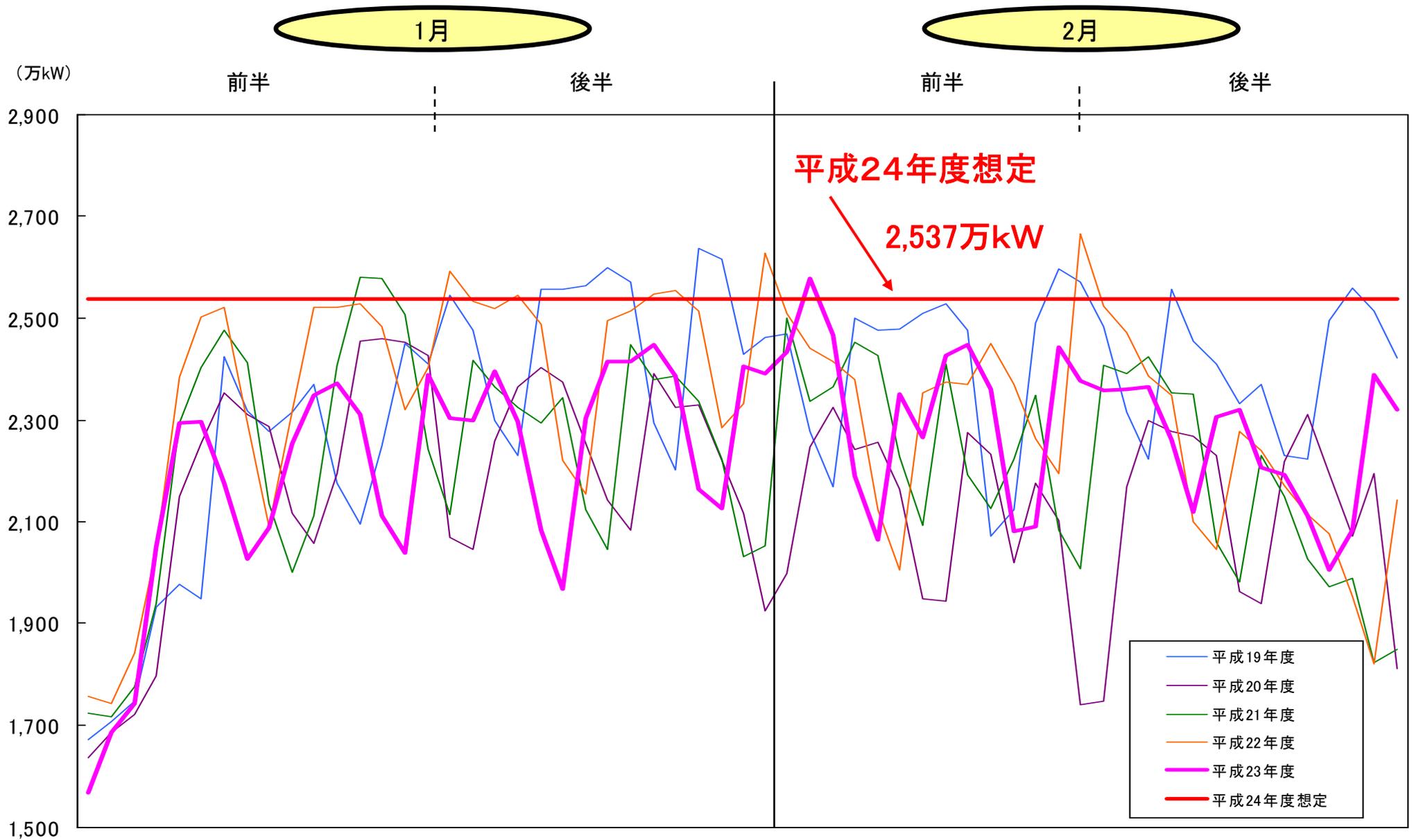


今冬の需給見通しについて

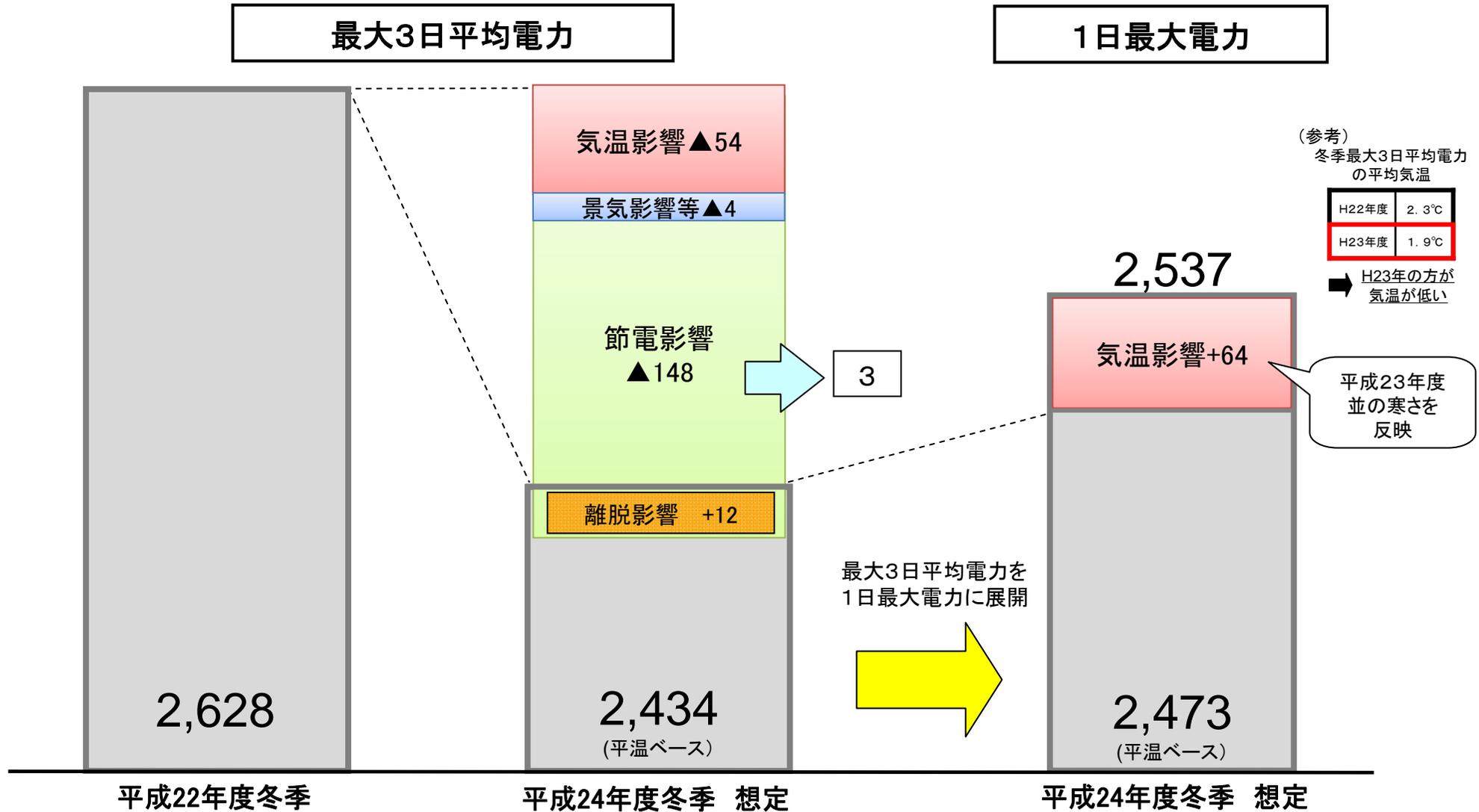
平成24年10月12日
関西電力株式会社

今冬の想定需要と過去5年の最大電力実績



○平成23年度並の厳冬を想定し、定着した節電を織り込んだ場合、今冬の需要は最大で2,537万kWになると想定しています。

今冬の最大電力想定について

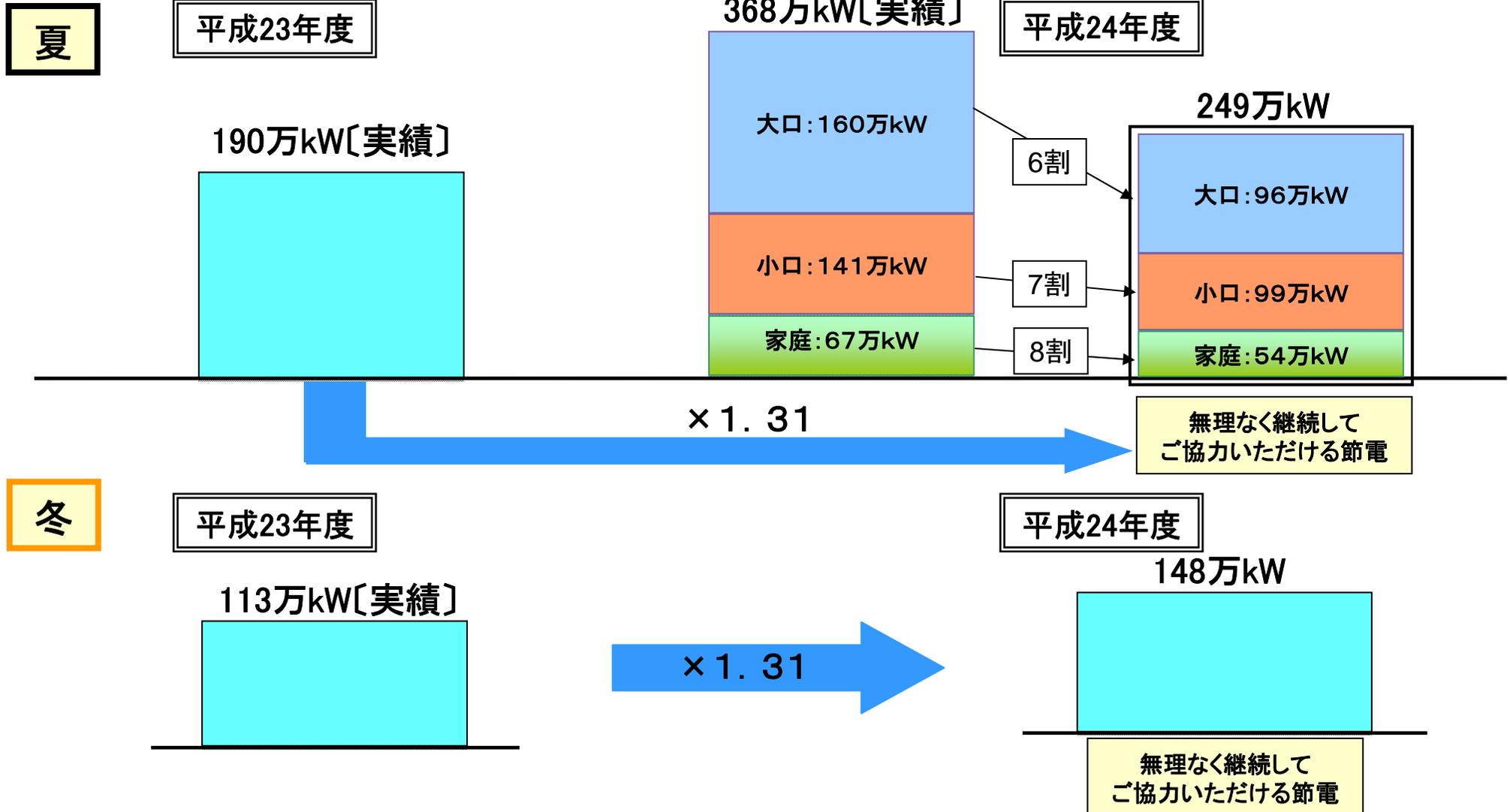


○今冬の最大3日平均電力の想定では、平成22年度実績(2,628万kW)から、定着した節電影響で▲148万kW、景気影響等で▲4万kW、離脱影響で+12万kWを勘案しています。また、平成22年度は気温が低かったため平温ベースに換算して、▲54万kW減少させ、2,434万kWと想定しています。

○今冬の1日最大電力ベースでは、平温では2,473万kW。平成23年度並の寒さを反映すると2,537万kWとなります。

最大電力想定における節電効果の織込みについて

(最大3日平均電力ベース)



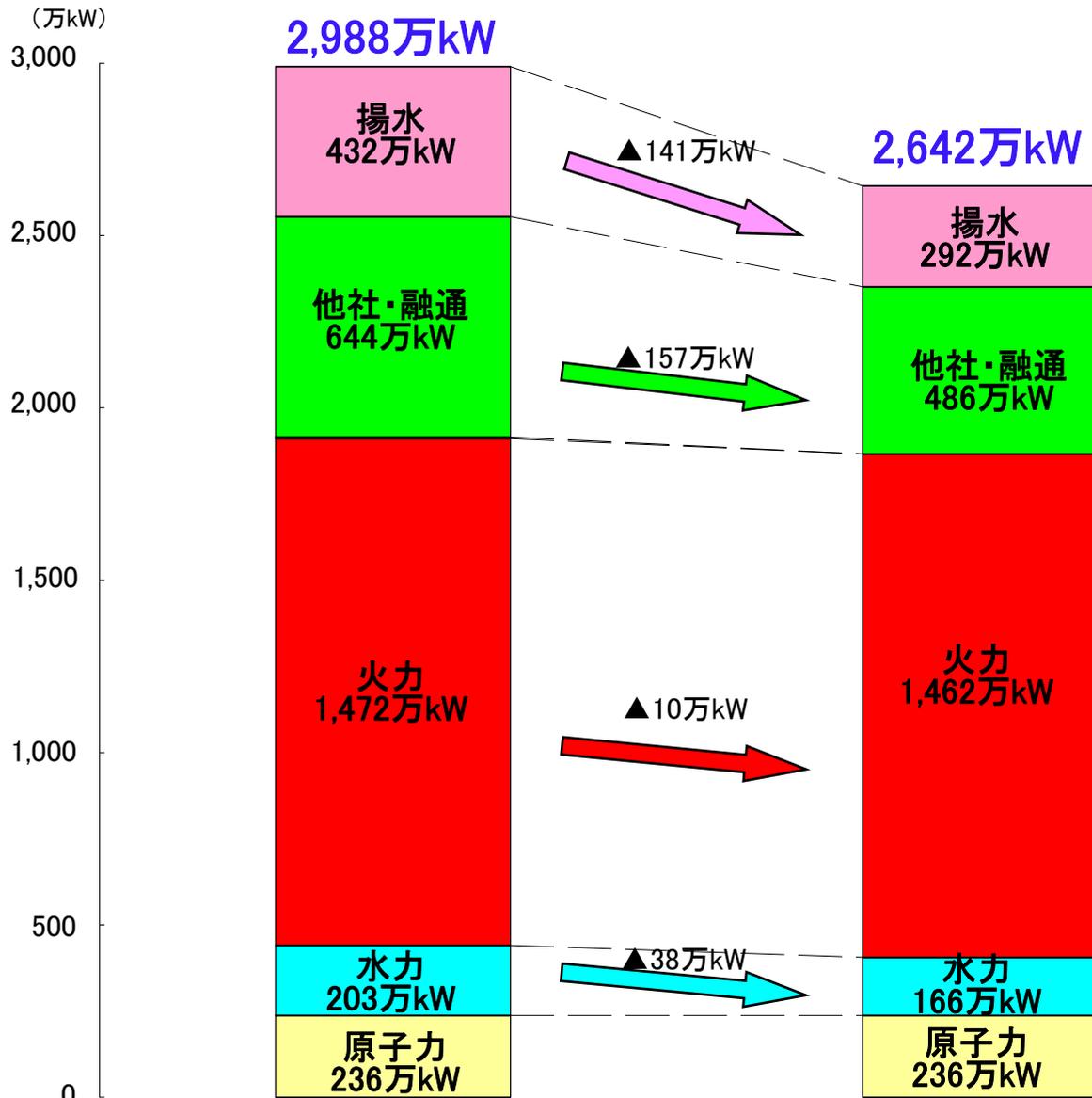
○アンケート調査の結果、平成24年度夏の節電実績(368万kW)のうち、「無理なく継続してご協力いただける節電」として、249万kWを見込みました。この249万kWは、平成23年度夏の実績と比較して、1.31倍に拡大しています。

○平成23年度冬の節電実績(113万kW)を1.31倍に拡大した148万kWを、平成24年度冬の「無理なく継続してご協力いただける節電」と見込みました。

供給力確保の状況(2月)

今夏想定
(大飯3・4号機稼動後)

今冬想定(2月)



・想定需要とベース供給力から計算

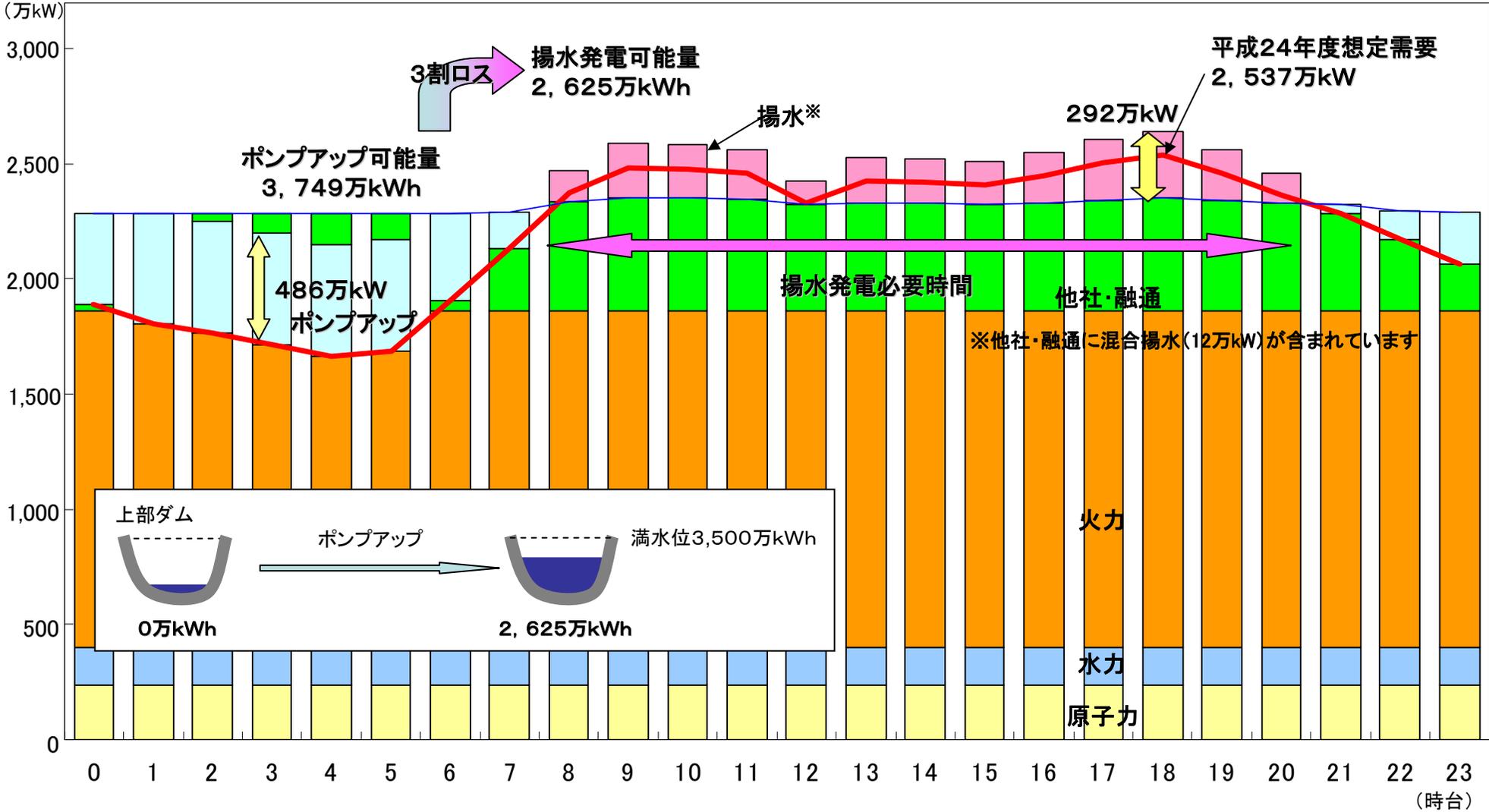
- ・応援融通の減 (▲110)
- ・自家発の減 (▲14)
- ・太陽光の減 (▲5) 他

- ・海南3号定期点検による減 (▲60)
- ・大気温によるガスタービンの出力低下の改善による増 (+37)
- ・出力向上運転の見直しによる増 (+10)
- ・姫路第一GTの営業運転による増 (+3)

・季節の違いによる出水状況の差

※四捨五入のため合計が合わないことがあります。

今冬における揚水発電可能量



○揚水の発電可能量2,625万kWhを、発電必要時間の予備率が一定になるように割り当てると、18時台の揚水発電供給力は292万kWとなります。

今冬の需給見通し

○今冬の需給見通しは、4%程度の予備率を確保できる見通しです。

(発電端: 万kW)

	1 月	2 月
需要	2,537	2,537
供給力	2,670	2,642
予備力	133	105
予備率	5.2%	4.1%

供給力内訳	揚水	301	292
	他社・融通	496	486
	火力	1,467	1,462
	水力	170	166
	原子力	236	236